

市の木

市の花



ツゲ サツキ

広報 えびな

編集・発行

海老名市役所秘書広報課

〒243-04

神奈川県海老名市国分155

☎ (0462) 31・2111



笑いあり、ゲームあり 楽しかった1日

海老名J.C.の
介護で「江戸号」に乗車のためのボ
ランテ

「車イスの人は、相模線に乗るの初めてだし、お座敷列車に乗るのも、もちろん初めて。みんな楽しみにしていました。私たち障害者は公共交通機関を利用したい、という強い希望があります。こうした機会を通して障害者を理解してもらえれば大変われいすね」と、海老名市役所（わかば作業所）所長は、

「知恵遅れの人には、健康な人と違って介護者がいないと旅行

また、輸送力の増強では、六

「車イスの人は、相模線に乗るの初めてだし、お座敷列車に乗るのも、もちろん初めて。みんな楽しみにしていました。私たち障害者は公共交通機関を利用したい、という強い希望があります。こうした機会を通して障害者を理解してもらえれば大変われいすね」と、海老名市役所（わかば作業所）所長は、

「知恵遅れの人には、健康な人と違って介護者がいないと旅行

また、輸送力の増強では、六

「車イスの人は、相模線に乗るの初めてだし、お座敷列車に乗るのも、もちろん初めて。みんな楽しみにしていました。私たち障害者は公共交通機関を利用したい、という強い希望があります。こうした機会を通して障害者を理解してもらえれば大変われいすね」と、海老名市役所（わかば作業所）所長は、

「知恵遅れの人には、健康な人と違って介護者がいないと旅行

また、輸送力の増強では、六

海老名新駅設置に成果

市では、長年の懸案であった国鉄相模線に海老名新駅を設置するため、自治省や国鉄などに承認運動を展開してきました。国鉄相模線の活性化について、相模線活性化促進協議会構成・県、相模線沿線の四市一町とその各商工団体が中心となり行ってきました。

同協議会は、要望を関係機関に働きかける一方、ユニークな催し物の開催で相模線と市民を結びつける動きもしてきました。要望の最重要課題として取り上げたのが、海老名新駅の設置や輸送力の増強などでした。市民に最も関心の強かった国鉄相模線海老名新駅は、六十二年春を目途に建設される予定です。

また、輸送力の増強では、六

11月から運行改善

国鉄は、十一月一日から全国的なダイヤ改正を行います。相模線も増発や延長運転の改善が行われます。

改善内容は①朝の通勤通学時間帯に、二往復増発と下四本の延長②夕下タイムに上下六本の増発と延長③夜間帯に一往復増発となつていきます。

また、輸送力の増強では、六

よみがえれ 相模線

海老名J.C.が障害者など招待

相模線を一往復

国鉄相模線は横浜線本駅と東海道線茅ヶ崎駅を結ぶ全長三十三・三キロの県下では数少ない単線です。この相模線活性化のための取り組みがいろいろ行われていますが、海老名青年会議所（海老名J.C.）は、九月三日にお座敷列車を運行し、障害者や老人を招待し旅行を楽しんでももらいました。この海老名J.C.の活動を通して相模線活性化の活動状況を紹介してみます。

九月三日、午後一時五十六分、障害者や老人の招待を一般参加者を募った「お座敷列車・江戸号（六両編成）」が厚木貨物駅を出発し、相模線を一往復しました。このお座敷列車は海老名青年会議所が企画したもので、国鉄相模線の活性化への試みと同時に、健康な人と通って外出する機会のない在宅重度障害者や老人ホームなどのお年寄りをお座敷列車に招待し旅行を楽しんでもらったのです。

活性化と奉仕が目的

「海老名青年会議所は、海老名新駅設置期成同盟に参加していましたから、何か相模線の活性化に役立つ活動はないか、と考えて到達したのがこのお座敷列車の企画でした。活性化と同時に、奉仕を学ぶという本年度の目標がありましたから、体の不自由な方や老人を招待し、体験を通じて福祉を学びたかったのです」と話している。

日本青年会議所は今年三十五周年を迎えるが、海老名青年会議所（内藤 晋理事長、会

員五十二人は、この祝日の当日をお座敷列車の催し物で祝うという。それだけに会員の熱の入れ様もあつた。八月三十日には、市総合福祉会館で講師を招き「障害者を理解するための学習会」を開き、障害者の介護の仕方や現況を学び、当日に備えたそうだった。また、こうした活動も一年で終わることなく、奉仕とは何かを学びながら、福祉活動の一翼を担っていきたい、とその抱負を話している。

お座敷列車で旅を満喫



671

